

『先進国・韓国の憂鬱』

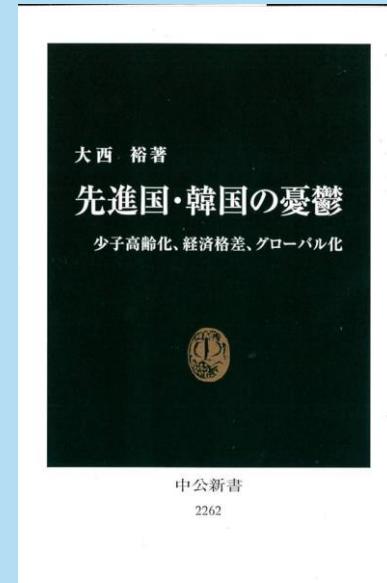
大西裕

(中公新書 2014) 264ページ

220781181 水野伶皇

序章：本書の構成

- 1 章：金大中(キムデジュン)政権の政策展開を説明
- 2 章：盧武鉉(ノムヒヨン)政権の政策展開を検討
- 3 章：盧武鉉政権の米韓FTA推進過程を検討
- 4 章：イ・ミョンバク政権の経済社会政策の展開を検討
- 5 章：4 章までの議論の整理



1章：金大中政権の政策

金大中の政権は進歩派の人々から大きな期待



実際の金大中の政権は新自由主義的経済改革を断行

これにより、韓国の経済は大きく変貌

金大中大統領の誕生 (1998年～2003年)

a) 大統領選挙で金大中の勝利の理由

ア) 金鍾泌(キムジョンピル)との提携成功

これにより、忠清地方の票を獲得

イ) 大統領選挙と同時に通貨危機の発生

金大中は通貨危機への対応力の高さを發揮



↓

これらのことから多くの有権者の票を獲得

コーポラティズム的な社会協議体の設置

a) 設置理由

ア) 政治的支持基盤の醸成

イ) 政策の安定的執行

b) コーポラティズム

労働者の代表、使用者の代表、政府代表による協議

→結果を政策として実施

2章：盧武鉉政権の福祉政策 (2003年～2008年)

2つの新しい福祉圧力に直面

a) 少子化の進行

→社会保障体系の再構築が必須

b) 「新しい社会的リスク」への対応

ア) 「死角地帯」の問題

イ) 格差社会の問題



盧武鉉政権の新しい政治

a) 卢武鉉はメディアを活用

若年層の間で肯定的なイメージを定着

韓国では選挙法により街頭演説などが制限

つまり、マスメディアによる有権者のイメージが大切

福祉財政の低迷

盧武鉉政権の間、福祉予算も地方予算も低迷

国民負担率は30%台で先進国としては極めて低い水準

福祉予算は年平均約20%増加

→しかし、地方分権化の期待は未発生

3章：盧武鉉政権は新自由主義と批判

a) 2つの批判理由

ア) 社会保障の非充実

イ) 新自由主義的改革に親和的な経済政策を実行

盧武鉉は反米的であったが、**米韓FTA**を推進

米韓FTAとは輸出産業が強い韓国企業の競争力を高めるもの

盧武鉉が米韓FTAを推進した理由

盧武鉉は当選前からFTAなどの経済開放に積極的
だが、貿易自由化交渉をWTOで実現



しかし、FTAの非締結は実害を発生

FTA推進の必要性と日中間のサンドイッチ状態から脱出
→これには米韓FTAが必要不可欠

米韓FTA締結の問題

盧武鉉はAPEC首脳会議で米韓FTA交渉入りを発表

しかし、アメリカ側がこれを拒否

理由：米水準のFTA締結意思が韓国にあるか確認が必要

盧武鉉政権はこの懸念に異例のスピードで対処

盧武鉉政権の経済政策

a) 韓国内で深刻なイデオロギー対立を発生

ア) 進歩派と保守派の価値観をめぐる対立

盧武鉉政権はこの対立を深刻化

b) 盧武鉉の考えは社会投資国家として福祉が必要

しかし、この考え方が左右両派から大変評判が悪かった

盧武鉉政権は社会的同意の導きに失敗

4章：イ・ミョンバク政権 (2008年～2013)

まず、李明博は盧武鉉政権の否定を意識

李明博政権の経済政策は、実用主義

→成長の果実の分配より高い経済成長が目標



福祉政策についても進歩派政権と異なる政策を実行

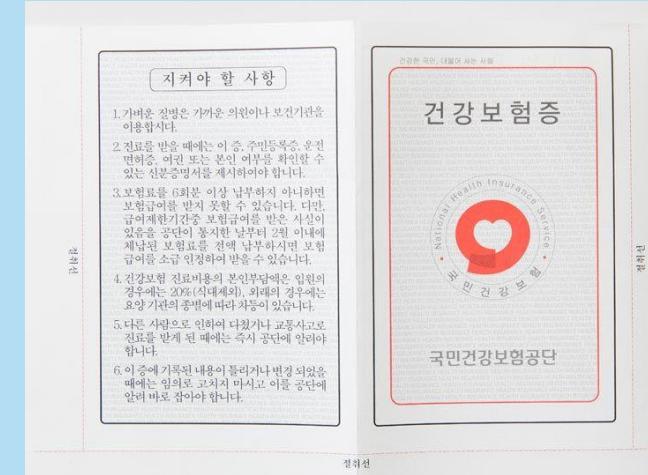
政権の新しい福祉路線の名称は「能動的福祉」

韓国の国民健康保険の問題

a) 韓国の国民健康保険の大きな2つの問題

ア) 1つ目は財政赤字

イ) 2つ目は治療費の本人負担額の高さ



これらの問題を李明博政権は給付支出の効率化で解決

唯一米韓FTAのみ継承

李明博は米韓FTAなどのFTA戦略の継承を明言
理由としてはFTAは経済領土の拡大に直結

盧武鉉政権は社会保障とFTAを連動



李明博政権は安全保障とFTAを連動

李明博のリーダーシップ不足

李明博のリーダーシップ不足が大運河構想で露呈
内陸都市を港湾都市に変更→内陸経済が活性化
これが大運河構想で国土を改造し経済を活性化

しかし、この構想は大統領選挙の公約の時から不人気

李明博は危機に対して
通貨スワップ協定の締結国内の需要の拡大で対策

5章：これまでの総括

韓国政治において、主要な争点が社会保障の理由

a) 一つ目の理由：経済レベルで政治的解決が必要

1997年の通貨危機が韓国経済の体質を変化

この時から、社会保障の切迫感は拡大

b) 二つ目の理由：言説のレベルの変化

朴槿恵の社会保障構想 (2013年～2017年)

朴槿恵：東アジア、韓国史上初の女性大統領

朴槿恵は保守派

朴槿恵の社会保障

自由主義モデルを目指した社会保障改革とは全く別の物

朴槿恵の構想内容

a) 社会保障型福祉国家

生活保障に重点

現金給付より社会サービスの充実に転換



朴槿恵の構想内容

b) 普遍主義的福祉

国家が福祉を提供

福祉の対象がすべての人々

c) 福祉サービス供給主体を多様化

市場親和的だが全体としては国家が管理

→福祉ミックスあるいは福祉多元主義的な考え方

終わりに：結論

韓国は時期によって極端に評価が変動

通貨危機の時は韓国がいかにダメかという論調が支配

危機から劇的に復活→とても賞賛

結論

日本も韓国も政治的、経済的に解決策を模索中